

# まゆだま

2011. 11. 8. 発行  
No. 350



連絡先：高田（榎原小学校）  
東京歴教協 八王子支部

～ 今月の例会は、「浅川地下壕の保存をすすめる会」とのコラボレーションでしたが、学校行事や修学旅行明けで忙しい中をかけた皆さんで貴重なお話を聞くことができました。だんだんお話も聞く機会も貴重になっていきますね。～

## 10月の例会報告：「シベリア抑留のお話」

今回の講演：「魚の父さん・・・私です」シベリア抑留者遺族の戦後  
講師 渡辺祥子さん(元歴教協八王子支部会員、シベリア抑留者遺族)



講師の渡辺さんは、元歴教協八王子支部会員です。退職した後お母様が亡くなり、「自分の骨は散骨するように」との遺書が見つかりました。渡辺さんは散骨の場所を、お父様が亡くなったシベリアの地の他にないと思い定めて、ロシア語の勉強に取りかかりました。それから一つ一つの人の縁をたぐっていくうちに、次から次へと縁が広がって、この10月にはラトビア訪問にまで至りました。「シベリア抑留」は寒さと飢えの中で多くの日本人の生命が失われた歴史上の悲惨な出来事でした。その事実を見据えながら友情と連帯の環を広げていった渡辺さんの経験からたくさんの事を学びたいと思います。

①日本人ばかりではなく、ソビエト連邦内の政治犯なども数多く命を落としたと言われるノリリスクでは、地元の方々の努力で慰霊碑が建てられている。ここに間もなく渡辺さんの尽力で日本人の慰霊碑が建つことになっているといえます。



②2004年9月、ノリリスクのゴルゴタ・合同慰霊碑群の一角にお母さんの遺骨を仮埋葬した時という内容です。

講演の内容で良かったのは、戦争体験者はだいぶ亡くなってきているので、子どもの頃体験した人が自分の親を通して戦争について語ったことです。そして、渡辺さんは過去の事にするのではなく、未来に繋げたいと切に希望していました。ですから、今日のお話は「語り部として若い世代に話しておきたい」という思いが満ちあふれる講演となったのでしょうか。有り難うございました。あわせてこれからのご活躍もお祈り申し上げます。

## ○ 参加した皆さんの感想より ○

戦争というのは絶対に始めてはいけないのだと改めて感じました。渡辺さんの御家族の話聞いて、お母様は樺太から山口までどんな気持ちで向かったのかと考えると、とても心が痛みました。お人好しの母だと言っていました。それだけでなく心が強いお母様だと思いました。過去の過ちを教訓にするということを私もしていきたいと思いました。遺族の方から話を聞くことは、大切だと感じました。

一人の人間の存在が、その妻、その娘に引き継がれ、後世に生きる人達に「かつてあった残酷な事実」を語り伝えていくことになる。シベリア抑留を余儀なくされた父の無念、母の悲しみを一人娘の渡辺さんが一つ一つ足跡を辿ってお母さんの散骨、父の慰霊に訪れた強い思いにひきつけられました。シベリア語の習得や慰霊のその思いにより「閉鎖都市」の重い扉を開けていく過程には、感動しました。

一昨日東北のボランティアから帰ってきたばかりに聞きました。石巻のお墓が倒れていて、骨壺の入れ物が開いていて、そこから遺骨を拾っているのを見ていたものから、それを思い出しながら聞きました。震災は自然災害ですが、家族を失った方の気持ちが共通です。渡辺さんの「抑留を越えていきたい」というメッセージが心に残りました。過去のことにするのではなく、未来につなげなければ。

松代大本営や浅川地下壕で働かされた数千名という数の強制労働の事実でもすごいことなのに、シベリア抑留60万人という数字を聞いて、想像もつきません。さらに厳寒の地で捕虜としての生活はある意味、「労働こそが自由」という名目のアウシュビッツ並ではなかったのかなと感じました。後世を生きる自分達は、この知らない事実を知ること未来に伝えていく大切さを担うべきだと感じました。

父親の骨は山口の実家の墓には無い。だから母親も父の骨の無い墓に入れるわけにはいかない。そんな気持ちがあったのだろうと推測します。白樺の木のお話も心にひしひしと伝わってきました。やっと終わった戦争が、戦後人生一生をかけて家族のために、家族の気持ちを背負って家族のために行動する。本当に御苦労されたなと思います。渡辺さんの願う慰霊碑ができることを心から願っております。

北方で起こった数々の悲劇は、戦争の直接被害というよりも敗戦国の悲劇となかなか語り継がれていないように思う。戦後66年の月日が周囲に身近な帰還者もないのが現実で、直接のお話を聞く機会ももうあまりないかも知れません。しかし過去の歴史を学ばなければ、人間はまた同じ過ちを繰り返します。今日の話をしっかり胸に刻み、それを再伝承していけるよう学びを深めたいと思います。



○ 浅川地下壕の保存をすすめる会 ○

現在、戦争遺跡と呼ばれる戦争文化財は、全国に190カ所あると言われています。そのうち東京には16カ所あり、多摩地域を見ると、調布白糸台の掩体壕や武蔵村山の少年飛行兵の碑、八王子空襲の写真原盤といった建物や碑、物具などがあります。

その規模では、松代大本営と同じように、この浅川地下壕は戦争遺跡としての価値は十分にあり、ぜひとも保存をしてその歴史の意味を後世に伝えるものでなくてはならないと、十菱会長も訴えていました。浅川地下壕は中島飛行機という軍の屋台骨となった工場(軍需工場)ですから、その保存管理は国がすべきでありましょう。しかし、お話を聞いてみると、現実には土地所有権の問題からして複雑で、戦争遺跡の登録までの道のりはなかなか険しいようです。

それでもこの15年間、少しずつ活動してこられた会の方の努力は、素晴らしいものです。同じ民間研究団体として、共に歩んで行ければと思います。1日も早い史跡登録を願って止みません。今後もタイアップしながら両方の団体の繁栄を願います。



○ 八王子を歩く ○

八王子支部会員の栗原さんより、今月の歴史散歩の紹介が届きました。

今月号の歴史散歩は、八王子宿の横山宿です。甲州街道を歩いて高尾方面へ向かうと、横山という場所があります。街道沿いの商店街は立派なのですが、再開発の波に押されて栄えている感じではありません。

ところどころの古めかしい店構えに昔の宿場町の跡を見ることができそうな気もしますが、八王子空襲で大きな被害があったこの地域では、当時の歴史的遺産を見つけるのはなかなか難しいかもしれません。

身の回りにある歴史の掘り起こしという歴教協会員の基本姿勢は、このように生活に根ざした視点で地域を見る栗原先生のこの感覚に学ぶことができますね。いつも会報への御協力を有り難うございます。

秋の行楽に甲州街道を歩いてみるのもいいかもしれませんね。教材！

八王子宿 歴史散歩



横山宿 (横山町)

現在の八王子市の成り立ちは、八王子城落城の後、八王子城下にあった横山、八日市、八幡の三宿を現在地に移したことに始まります。さらに八本宿を加え、3年後に甲州の小人頭を千人町に移住させたことよってできあがったといわれています。

横山宿は八王子横山宿とよばれ、本陣と問屋場をもつ本宿(他に八日市宿も本宿)でした。本陣は現在の横山郵便局のあたりにあったといわれています。

月の4日、14日、24日に市が開かれました。

○ 今後の例会の予定 ○

11月例会	・・・	11月19日(土)	14:00~16:30
12月例会	・・・	12月 3日(土)	14:00~16:30
1月例会	・・・	1月21日(土)	14:00~16:30
2月例会	・・・	2月26日(日)	東京大会学習会に参加
3月例会	・・・	事務局会のみ	(例会はありません)

校務に行事に学級経営に追われる”忙しい毎日”ですが、月に1回、土曜日の午後のひとときを”学びの時間”にしてみませんか？現場の工夫や悩みは、現場同士の学び合いの中から解決の糸口が見えてくるもの。ぜひ職場の同僚を誘い合って、例会を盛り上げていきましょう。皆様の御参加を、事務局一同心よりお待ち申し上げます。



— 11月例会のご案内 —

11月例会：「6年生の社会科 1年間を見据えて」

日時：2011年11月19日(土) 14:00~16:30頃  
場所：台町市民センター (JR西八王子南口徒歩8分→いつもと違います)

★今月も、台町市民センター(だいまちしみんセンター)です。

報告者：高田 真澄さん(榎原小学校教諭)

内容：小学校6年生の社会科授業の1年間のカリキュラムをどう組むか長年社会科授業の工夫に取り組んできたベテラン教諭が、教材の準備や工夫、そして直面する苦悩について語ります。参加者の皆さんで、日常の思いを語り合しましょう。お待ちしております。

— 12月例会のご案内 —

12月例会：「高校の社会科授業実践報告」

日時：2011年12月 3日(土) 14:00~16:30頃  
場所：台町市民センター (JR西八王子南口徒歩8分 11月と同じです)

報告者：若林 徹さん(都立八王子拓真高校教諭)

内容：高校の社会科の授業でも、子ども達の興味関心を高めるための工夫は必要です。いつもアイデアあふれる教材で社会科の授業を面白く展開している若林さん。その極意やノウハウは小中学校でも十分に活用できるものではないでしょうか？授業のヒントと元気をもらいに、今月も、台町市民センター(だいまちしみんセンター)へGO!!